

今後の水管理について

1) 浅水管理について

本年は移植前後の天候に恵まれ、活着は順調でした。

その反面、育苗後期が高温多照であったため、徒長した苗も見られました。

徒長した葉は柔らかく、長期間に渡って田面に張り付いたままだと、光合成ができずに、生育が遅れたり、分げつの発生が抑制されます。

また、5 cm 以下の浅水管理では昼夜の寒暖差が大きくなり、分げつの発生を促進します。

除草剤散布 7 日後からは、積極的に浅水管理を行い、分げつの促進を行いましょう。

2) 中干しについて

中干しは、高温多照で、稲の生育が早く、必要な茎数確保された場合に限り行います。

早期の中干しは、好影響よりも、初期茎数の不足や生育の遅れによる、穂揃いの悪化、整粒歩合の低下などの悪影響になる場合があります。

中干しは、6月20日以降に連続した好天が見込める4～5日間で実施します。

茎数が少なかった場合は、水の入れ替えにとどめ、茎数の発生を優先します。

また、幼穂形成期になった場合は中干しを中止しましょう。